

第20回上サロベツ自然再生協議会再生技術部会 議事概要

日時：平成27年3月5日（木）13：30～16：35

場所：豊富町町民センター 大ホール

出席者：21名（個人11名、団体・機関10名）

傍聴者：7名（うち報道関係者4名）

1. 開会

2. 座長及び座長代理の選出

○座長に井上京氏、座長代理に村元正己氏が選出された。

3. 座長挨拶：井上京氏

4. 議事（報告）

①緩衝帯のモニタリングについて

○北海道開発局稚内開発建設部から報告

《質疑》

（構成員）植生調査について事業実施前のデータは取られているか。

（開 建）報徳、落合緩衝帯に関しては実証試験としてはじめに実施したところで実施前の植生データはありません。他の緩衝帯について数年間データが取れているところもある。手元にデータがないので来年お示しします。

（構成員）本日のデータを見る限り、プラスの影響が出ていると思われるので、事業実施前のデータと比較すると、もっと判るのではないか。

（構成員）7頁目の図で旧排水路を残したところは良好な結果が出てきている。8頁目の図で農地側の新排水路の水位が高く、湿原側の旧排水路が低いときに、新排水路から旧排水路へ水を戻すようなことで、人為的にコントロールすることがあればやめて欲しい

（開 建）排水路は、自然に任せる形で人為的なコントロールをするようなことはしない。

（座 長）緩衝帯を作ったことで湿地性植物が戻ってきている。

②沈砂池のモニタリングについて

○北海道開発局稚内開発建設部から報告

《質疑》

（構成員）流入する土砂量と流出する土砂量のC点とB点の比較は出来ないか。

（開 建）B点は濁度計により計測を行っている。

（構成員）A点にとどまっている土砂の量や質を見て、沈砂地の効果を説明できるようにするとよい。

（座 長）A点は実測しているが、B点の浮遊土砂は機械計測で把握がむずかしいと思う。

③サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策について

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質 疑》

(構成員) 水路5でササが枯死したと報告があったが、水位が上がったことに加え、ケイ酸イオン濃度が下がったことによると考えられる。水質も調査した方がよいのではないか。

(環境省) 今はデータを持ち合わせていないが、水質の調査も行っているので、ケイ酸イオン濃度を確認したい。

④サロベツ原生花園跡地の植生回復試験について

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質 疑》

(構成員) 駐車場の土砂を撤去して欲しかったができなかった。土砂に含まれるケイ酸やカルシウムが周囲の水質に影響をおよぼすおそれがある。

(環境省) 当該地は地盤沈下に対応するため毎年のように土砂を充填しており、最終的には深さ5mもの土砂が堆積していた。全ての土砂を撤去することは、周囲の地盤の不安定化や地下水位の流出を招くおそれがあったため、検討の結果、表土掘削だけに留めた経緯がある。ケイ酸やカルシウムについては、撤去工事の直後は高い数値がみられたものの、その後低下し現在は安定している。

(構成員) 雨が降らずに乾燥化した後に水質が悪化する可能性がある、水質の悪い水をサロベツ川に放水するなど水のコントロールを検討してもらいたい。

(座 長) 当該地の標高から考えると、水は基本的には道路側溝に落ちるだろう。ただ、水質のモニタリングは定期的に行った方がよい。

⑤泥炭採掘跡地の植生回復試験について

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質 疑》特になし

⑥丸山周辺のササ侵入抑制対策について

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質 疑》

(座 長) 今回初めての報告である。乾燥化の指標であるササの拡大をどのようにして抑えていくか、剥ぎ取りと溝を掘ることによりササの根の伸長を止める試験を実施するもの。

(構成員) ササがパッチ状にあるということは、元々ササがあったところではないか。

(環境省) 航空写真から見た年代ごとのササの分布状況を見ると、パッチ状のところには1977年時点でササは分布していない。

(構成員) 剥ぎ取り後の掘削の深さについて、掘削後は冠水している状態なのか。冠水していなければ外来種が侵入するおそれもあるのではないか。

(環境省) ひたひたに冠水している状態を想定している。

(座 長) 当該地には泥炭を投入するわけではないので外来種が侵入する可能性は少ないのではないか。しかし、一方で開水面になると中間湿原、低層湿原の植生に向かう可能性がある。ひたひたに冠水するくらいが適当だろう。

(構成員) ササやハンノキが生えているところは地下水のケイ酸イオン濃度、リン酸イオン濃度が高い。ササの拡大は水質が要因となるところもあるので、当該地のケイ酸イオン濃度、リン酸イオン濃度が高い場合、剥ぎ取りや掘削を行っても十分な効果が上がらない可能性もある。

(座 長) 対策を行う前に水質のチェックが必要だろう。

(環境省) 対策前に水質を調査し、その後もモニタリングを行いたい。

(構成員) 丸山台地を出たすぐの場所にあるハンノキは、以前はなかった。また、道路側溝の排水が湿原側に流れていかないように遮水壁を入れること等を検討してもらいたい。

(座長) この議題とは異なるが、ご意見として了解した。

(座長) ササ対策の工事を実施するのはいつか。

(環境省) 湿原内に重機を入れる必要があるため、冬の積雪時期に施工する予定。

⑦稚咲内砂丘林自然再生事業 平成26年度の実施状況について

○林野庁北海道森林管理局から報告

《質 疑》

(構成員) 稚咲内砂丘林は貴重である。砂丘林全体の取扱いについて教えて頂きたい。

(林野庁) 保護林に指定しており、自然の推移や森林の遷移に委ねていくという取扱方針としている。また、その方針の下で湖沼群の水位低下の抑制等を目標として、今後も自然再生事業を丁寧に進めて参りたい。

(構成員) 水質調査の分析項目にクロロフィル a はあるか。また、魚類と水質との関係についても調査してはどうか。

(林野庁) 水質調査はクロロフィル a も分析項目としている。また、水生生物と併せてモニタリング調査に努め、調査結果については技術部会等に報告させて頂きたい。

5. その他

○構成員から資料提供：ササの生育と地下水の水質について

○サロベツにまつわる、湿原の本3冊について照会

6. 閉会